

コースを終えての感想

オーストラリアに来た目的、それは、海外の保育園で働くという夢を叶えるためでした。日本で幼稚園の教諭をしていた私は、昔から海外の保育にとっても興味がありました。

アカデミーの学校のことは、こちらに来てから知りました。3カ月でオーストラリアのチャイルドケアセンターで働ける資格がもらえるというのは、時間に限りがあるワーキングホリデービザの私には、とても魅力的でした。

生徒がほとんど日本人という環境は、正直最初迷いました。せっかく海外にいるのだから、国際的な環境に身を置きたいと思っていたからです。でも、今コースを終えて言えることは、日本人と助け合えたこの環境で本当に良かったということです。英語が何不自由なく理解できる人ならともかく、まだまだ中途半端な私にとって、授業や課題の内容をクラスメートと確認できたことは、大きな安心でした。もしこれが、クラスメートとの確認もままならなかったら…、さすがのポジティブガールな私も、家に引きこもってしまったかもしれません。それくらい、課題は大変でした。資格を得るということは、語学学校のように、その時間だけ学校で勉強するのではなく、家でも時間を割いて復習や課題をしないと得られないものなのだ、身を持って実感しました。アルバイトをしながらの、この生活は、本当に辛かったです。大好きな夜遊びも出来ませんでした。でも、先生はすごく温かく、常に生徒一人一人を気かけ、皆が理解出来るよう、丁寧に教えてくれました。クラスメート同士の絆は強く、いつもラインで励ましあっていました。日本人カウンセラーのさちこさんもいつも声をかけてくれ、授業のこと以外も相談にのってくれました。

授業では、手遊びや、制作などのアクティビティーをイメージしていましたが、実際はペーパーワークがほとんどでした。大抵の学校では取得までに6カ月かかるものを、3カ月で取るのだから、本当に必要なことを短期間で集中して行うという感じでした。

実習では、夢だった海外の保育所で、幼児教育に携われたことに感動しました。そして実際にその環境に身を置けたことで、日本と海外の保育の違いを肌で感じる事が出来ました。

例えば、履物が園内と園外で同じ(上履きと外靴に分かれていない)、食事の前に、「いただきます」という習慣がないため、配膳された子から食べ始める、何か活動を行う際に、全員がそろそろ必要はなく、興味のある子どもが参加する、保育者と保護者が仲良く世間話をしていて、距離感が近い、保育者がエプロンをしていない(ネイルやスカートなどおしゃれを楽しんでいる)、子どもの人数に対する保育者の数が多い、シフトの時間が終わったら、即帰宅(残業がない)…などなど、ここに挙げたのはごく一例ですが、日々、驚きの連続でした。日本では当たり前だった常識が覆される実習でした。もちろん、国内外の違いだけではなく、各園における特色というのも多いにあると思いますが、文化の違いや、法律の違いを、幼児教育という分野を通して学ぶことが出来ました。

そして、日本で保育をしていた時に何となく感じていた違和感の解消方を、オーストラリアの保育の中に見つけたり、同時に、日本の子ども達が行っていたことが当たり前のことではなく、すごいことだったのだと気づいたりすることが出来ました。どちらがいい悪いではなく、双方のいいところを自分なりに習得し、活かしていくことがこれからの私の課題だと思っています。

実習の最終日に、センターから、仕事のお話を頂きました。まさか声をかけて頂けるとは思っていませんでしたので、目からうろこでした。というのも、ローカルの仕事にこだわっていた時、手当たり次第、飲食店に履歴書を配ったけれど、一つも仕事を得ることが出来なかった経験があったからです。オーストラリアの資格を持つと、こんなにも世界が広がるのだと、嬉しさでいっぱいになりました。残念ながら、そのお仕事はタイミングが合わず受けることが出来ませんでした。ビザを延長したら、自分の好きな土地で、頑張っって仕事を探して、オーストラリアの人たちの中で一員となって働くのが、今の私の夢です。

最後になりますが、子どもの笑顔は世界共通です！日本を飛び出し、このコースに出会い、貴重な体験、出会いに恵まれたことに、心から感謝しています。